

平成22年度

市民活動支援事業

成果報告書



霧島市

はじめに

少子高齢化の進行や行政に対する市民のニーズの複雑化、ライフスタイルの多様化によって、必要とされる「公共サービス」を行政だけですべて対応することは、質的にも量的にも困難な状況であります。

このような状況から、本市においても、行政だけでなく、地域の自治会やボランティア団体、NPO団体などが、相互に信頼関係を築き、それぞれの特性や個性を活かしながら連携・協力し、地域の様々な課題の解決や必要なサービスの提供を行うなど、共生・協働によるまちづくりを推進していくため、平成22年3月には、霧島市共生・協働に関する指針を策定したところです。

この指針においても、地域団体・市民活動団体は、地域のさまざまな課題について、個々の住民ニーズをより身近にとらえ、独自の判断で、的確かつ柔軟にサービスを提供する公共の担い手として期待されています。

現在、本市内では、さまざまな市民活動団体が、地域の課題の解決やよりよい市民生活の実現のために、自主的・自立的に活動を行っていますが、このような市民活動を促進し、共生・協働のまちづくりを推進するため、市民活動団体が行う公益的・公共的な活動に対して、その経費の一部を補助する制度を平成20年度に創設しました。

3年目となる平成22年度は、20団体20事業の応募がありました。地域社会における必要性(課題解決性)、公益性、先駆性・創造性等の審査基準に基づいて、学識経験者、市民活動関係者、公募委員等で構成する「霧島市市民活動促進委員会」による審査(一次審査：書類審査、二次審査：プレゼンテーション審査)を行った結果、20事業を採択し補助決定を行いました。ただ、2つの事業について、諸事情により事業実施できなかったことは残念でありましたが、今回も各団体それぞれにおいて、すばらしい活動が行われました。

この成果報告書は、18団体の事業の活動内容や成果等を取りまとめたものですが、市民活動団体(NPO等)の活動を広く市民に知っていただくと共に、市民活動の参考として活用していただき、「共生・協働によるまちづくり」が市全体へさらに広がることが期待されています。

目 次

◆ 平成22年度霧島市市民活動支援事業 実施団体成果報告

1	日当山夏祭り実行委員会	1
2	霧島連山登山クラブ・ボランティアレンジャーの会	3
3	特定非営利活動法人 霧島食育研究会	5
4	水の会	7
5	きりしま創造舞台	9
6	特定非営利活動法人 霧島ふるさと命の森をつくる会	11
7	よもぎの会	13
8	特定非営利活動法人『人権を守る会かごしま』	15
9	特定非営利活動法人 NPOしきね	17
10	霧島心肺蘇生の会	19
11	特定非営利活動法人 霧島サンバイオ	21
12	特定非営利活動法人 Ryouiku Circle はなはな	23
13	清水ほたる愛好会	25
14	日当山会	27
15	きりしま・国分子ども劇場	29
16	霧島市児童クラブ連絡会	31
17	大隅横川駅保存活用実行委員会	33
18	特定非営利活動法人 きりしま市民活動支援機構	35

〈 参 考 〉

・ 平成22年度 霧島市市民活動支援事業募集要項（抜粋）	37
・ 平成22年度 霧島市市民活動支援事業応募・採択内訳	38
・ 平成22年度 霧島市市民活動支援事業 実施結果	39

日当山夏祭り

<日当山夏祭り実行委員会>

事業費：638,682円

市補助金：425,000円

目的（背景・課題）

従来の日当山夏祭りは、花火を中心とした地元の祭りとして開催されていましたが、合併による新市・霧島市誕生の際に、引き継がれずに廃止となりました。

それに伴って祭り当日はもちろん、準備作業も含めて地域住民のふれあいの機会が減り、地域の元気がなくなった、お祭りがないとさびしい、という声が聞こえるようになってきました。

そこで、何とかせんといかん！と地元の有志が集まり、なんとしても夏祭りを復活させ、子どもから大人までの夢や希望を育み、地域を活性化させたいと、日当山夏祭り実行委員会が結成されました。昨年の第1回は、手づくり、手探りで開催しましたが、これを地域の祭りとして定着させ、地域住民全員で守り育てていきたい。

事業内容

○夏祭りの実施

平成22年8月7日(土) 15時～21時

場所：日当山温泉公園

出演：鹿児島城西高 …ダンス、歌

ハワイアンエコーズ…フラダンス

日当山中吹奏楽部 …吹奏楽

あさひ幼稚園 …あさひ子ども太鼓

松永保育園 …わらべ歌遊び

ほか多数

当日は、地域住民を中心に約4,000人が参加し、花火はありませんが歌や踊りなど、楽しい夏の夕べとなりました。

翌日（8日）は、スポーツ少年団の子供たちを中心に150人が集まって、会場やその周辺の清掃活動を行いました。



事業の成果

祭り当日はもちろん、準備作業も含めて地域住民の意識が高まるとともに、地域に対する愛着が生まれ、青少年の健全育成にもつながったものと思います。



自己評価

1. 事業効果
期待していた以上の効果が上がりました。
2. 改善すべき課題
舞台前にお客さんが集まり過ぎて、後方の方が見えないとの声がありましたので、次回は舞台前にスペースを設けるようにしたいと思います。
3. 予算執行
ほぼ予定どおり執行できました。
4. 今後の展望
4年前までは盛大な花火大会がありましたが、口蹄疫や予算等の関係で祭り自体が中止されました。花火大会が無理ならば、それに代わる住民参加型の祭りを実行していきたいものと思います。
5. その他
できるだけ努力はしたつもりでしたが、まだまだ住民の希望に充分応えることができませんでした。ささやかな祭りでも実行するのは大変な努力が必要ですので、若い方々のスタッフとしての参画をお願いしていきたいと思っています。

団体情報

〈団体名〉日当山夏祭り実行委員会

〈代表者〉米徳 満

〈設立日〉平成 21 年 4 月 1 日

〈会員数〉11 人

〈主な活動内容〉

- ・日当山の夏祭りを平成 21 年 8 月に復活させ、地域の青少年による演奏や地元の伝統芸能の披露など、花火なしの祭りを作り上げた。

〈連絡先〉

所在地 〒899-5115

霧島市隼人町東郷 1-27

TEL 0995-43-1789

FAX 0995-43-0412

E-mail yonetoku@po.mct.ne.jp

霧島連山登山環境整備事業

<霧島連山登山クラブ・ボランティアレンジャーの会>

事業費：296,338円

市補助金：197,000円

目的（背景・課題）

霧島市は近くに霧島連山というすばらしい自然環境をかかえているが、その自然環境の良さを十分に利活用してきたとはいえない。より多くの人に霧島連山の自然に親しんでもらい、自然の大切さを再認識してもらいたい。そこで、登山リーダーの後継者育成や登山道整備などジオパーク認定を見据え、登山環境の整備に取り組みたいと考える。

事業内容

○リーダー育成及び環境保全のための登山

平成22年

- 7/10 甑岳～硫黄山の登山（22名参加）
- 8/21 えびの岳～白鳥山～池巡り登山（34名参加）
- 9/9 曾木の滝周辺自然観察会（28名参加）
小学5年生22名と約5時間かけて歩く。
- 9/11 韓国岳～大浪池避難小屋～大浪池周回登山（17名参加）
- 9/25 矢岳～竜王山登山（33名参加）
- 9/26 救命応急講習会（市消防局）（24名参加）
- 10/16 白鳥山～六観音御池～甑岳～不動池登山（17名参加）
- 10/31 硫黄山～韓国岳火口底～六観音御池登山（17名参加）
- 11/2 白鳥山～六観音御池～不動池登山（20名参加）
- 11/20 古道～大浪池周回登山（20名参加）
- 12/11 高千穂登山（31名参加）

平成23年

- 1/10 獅市子岳への調査登山
- 2/2 新燃岳火口4km外での古道調査。



○登山道整備活動

平成22年

- 10/10 新湯林道登山道の丸太橋改修作業（18名参加）
- 10/14 縦走コース調査、防災看板、ロープ設置（11名参加）

平成23年

- 1/28 韓国岳山頂に立ち入り禁止の看板・ロープ等を設置。



事業の成果

- ・リーダーを決めて登山を実施し、リーダー育成に努めた。
- ・登山を重ねて、霧島連山の地形、地質、火山、植物等に会員皆が興味を持ち、自然の大切さを再認識して保全に努めた。
- ・登山道の整備作業を行ったり、また服装や挨拶等も気を付けて他の登山者への気配りができた。
- ・小学5年生を対象に自然散策等を実施して、健全育成に努めた。
- ・毎回高齢者の参加があり、生きがいに貢献できた。
- ・障害者のリハビリを兼ねての登山は実施できなかった。今後障害者のリハビリや生きがいに貢献したい。

自己評価

1. 事業効果
期待した効果が上がった。
2. 改善すべき課題
 - ・リーダーの増員と育成に努めたい。
 - ・今年度初めて事業に取り組み、予算が立てづらかったため、次年度は予算をしっかりと立てて事業に臨みたい。
3. 予算執行
会員が予定していたよりも少なく、収入源となりリーダー賃金を減額した。
また、機材等の購入も先延ばしにした。
4. 今後の展望
 - ・更にリーダー研修に力を入れて、安全登山のレベルアップを図りたい。
 - ・新たなコース作り及び整備等に力を注ぎたい。

5. その他

新燃岳噴火の影響を受けて、霧島登山が計画通りに実施できなかったため、規制を受けない新たな登山ルートを開発して、会員、他の登山者にも喜ばれた。



団体情報

- 〈団体名〉霧島連山登山クラブ・ボランティアレンジャーの会
- 〈代表者〉会長 益満 美登
- 〈設立日〉平成21年7月11日
- 〈会員数〉65人
- 〈主な活動内容〉
・霧島連山を探索しながら初心者と経験者が集まる登山を行い、安全な登山と自然環境保全のために登山道整備などを行っている。
- 〈連絡先〉
所在地 〒899-6603
霧島市牧園町高千穂 3701-182
TEL 0995-43-2353 (FAX 兼用)
E-mail 62p7y5@bma.biglobe.ne.jp

「霧島おにぎりプロジェクト」事業

～田んぼの教育ファーム

<特定非営利活動法人 霧島食育研究会>

事業費：601,637円

市補助金：400,000円

目的（背景・課題）

日本には食べ物があふれ、大人でも子どもでも、いつでもどこでもどんなものでも、お金さえあれば手に入れることができ、流通と農業技術の進歩により野菜や果物の旬は薄れ、また海外からの食品の輸入拡大で食糧自給率も低下の一途を辿っています。また、食卓には調理の簡単なインスタント食品や出来合いの惣菜が並ぶようになり、社会全体として「食育」の重要性が叫ばれています。

このような状況を踏まえ、早急に一人ひとりが現在の食生活をかえりみ、生活の質を高め、望ましい食生活を営む力をつける必要があると思います。そのために、①適切な食品を選び、調理するための知識・技術の習得、②「食事が楽しい!」と感じることのできる環境づくり、③旬の食べ物の味の違いや、素材の特徴、だしの風味がわかる味の教育、④食品の生産から消費までの社会の仕組みや環境問題の中で、「人が食べて生きていく」という意味を知る教育など、「豊かな食体験」とそれを促す教育が必要です。

本研究会のこれまでの地域に根ざした食育推進活動で得たノウハウを活用し、地元農家と連携し、霧島の圃場を使用し、米づくりを通じ、きめ細やかな食育体験の提供と家庭への食育及び地域ぐるみの食育活動の啓発を図ります。



事業内容

- 参加者 37名（小学生30名、幼児2名、成人5名）
- スタッフ のべ46名（霧島食育研究会、国分高校ボランティアスタッフ含む）
- 活動場所 霧島市牧園中津川圃場及び霧島食育研究会農場、霧島保健福祉センター
- ①6月26日 田植え、環境食料学習会
- ②7月17日 草取り、生き物調査、環境食料学習
- ③8月7日 草取り、生き物調査、環境食料学習
- ④9月4日 生き物調査、環境食料学習
- ⑤10月23日 稲刈り
- ⑥10月30日 脱穀、おにぎり作り
- ⑦11月21日 「霧島・食の文化祭」ワークショップ
- ⑧12月4日 わら細工しめ飾り作り



事業の成果

一年を通じた「米作り」において、まず、自分たちが食べているものが、できる過程を実体験を通して学ぶことで、先祖から脈々と伝えられてきた日本の米作農業の理解につながったと思います。また、霧島という地域の食文化としての米作の役割を、農作業を通して学び、田畑の環境における多面的な役割を実感しました。これは地域に根ざした食育活動の啓発につながり、また、今後も継続することで、霧島の食文化の全国発信にもつながるものと思います。



11/21「霧島・食の文化祭」ワークショップ



自己評価

1. 事業効果
期待していた以上の効果が上がりました。
2. 改善すべき課題
特にありません。
3. 予算執行
多少の変更がありました。
教室を充実させ、完全確保を確実にするための、人件費が増えた。
4. 今後の展望
今後も、霧島の「人・物・情報」を基にした、霧島独自の食育活動を展開し、食から霧島の良さを再評価する地域づくりに取り組んでいきたいと考えています。

団体情報

- 〈団体名〉 特定非営利活動法人
霧島食育研究会
- 〈代表者〉 理事長 千葉 しのぶ
- 〈設立日〉 平成 17 年 9 月 15 日
- 〈会員数〉 13 人
- 〈主な活動内容〉
- ・「霧島・食の文化祭」(年 1 回開催)
 - ・霧島の子どもと大人のための食育プログラム
 - ・「霧島食べ物伝承塾」の開催
 - ・「霧島・畑んがっこ」子ども組・畑遊び組
 - ・大人のための食育セミナー
 - ・棚田食育士養成食育実践講座開講
 - ・南日本新聞「鹿児島食育レシピ」掲載

〈連絡先〉

所在地 〒899-4201

霧島市霧島田口 2608-5

TEL 0995-57-0215 (FAX 兼用)

E-mail shinobuharry@yahoo.co.jp

竹山ダム周辺の環境整備と文化活動

<水の会>

事業費：423,902円

市補助金：210,000円

目的（背景・課題）

郷土史研究を重ねながら、農的生活の充実を期するとき、水への理解・感謝を深めることは大切であると考えます。

年数回の清掃作業等で美的感覚を養い、地球環境を守るための科学・哲学を論じ合う、文化活動の実践道場として「竹山水辺の里」（ふれあい広場）の整備を行い、関係諸団体とも連携をとりながら、その周辺の整備やイベント等を実施など、霧島市のまちづくり活動を展開していきたいと思えます。

事業内容

○竹山ダム公園の桜植樹

十三塚原土地改良区の支援により、竹山ダム公園の美化作業として、ダム周辺の道路脇に桜（ソメイヨシノ 30本）を植樹しました。

○山城の測量とウォーキングコースの設置

前年度の成果により、竹山城・高松城を測量して地図（5万分の1の位置図、5千分の1の縄張り図）を作成し、「山坂達者」の一周道路を再現しました。

○広場「水辺の里」の整備

国旗掲揚台をつくり、その近くに水道の敷設も行いました。今後は、トイレや休憩所の設置も予定しています。

○先進地等視察や市民交流イベントの開催

8月に菱刈の「がらっぱ王国」への視察研修を行い、7日に七夕飾りを行い、19日に水に感謝する夕べを開催しました。

参加者：45名



事業の成果

竹山ダム周辺が中世山城をはじめ、ダム公園（桜の名所）、水辺の里、西郷どんの道（「山坂達者」一周道路）、旧竹山石橋建立碑等の文化財がそのまま眠っている場所であることを再確認しました。

来年度も引き続き事業を実施し、先人の苦勞に報いたいと考えています。

「広場」の整備も若干進行し、環境が整備されてくると「遊び」仲間も増えてきます。

今後とも、霧島市の新名所として位置付け、全時代全世代を巻き込んでの市民文化運動に発展させたいと思っています。





「水の会」メンバーで七夕を飾り



自己評価

1. 事業効果
期待していた効果が上がりました。
2. 改善すべき課題
「水辺の里」周辺の諸文化財や住民に目配りしながら、事業内容の改善に尽力すべきだと自覚を新たにしました。
3. 予算執行
〈大きな変更が必要となりました。〉
竹山ダム周辺の整備に加えて、中世山城の研究調査が加わり、予算執行上バランスをやや欠いた運営となりました。
4. 今後の展望
広場及び山城ウォーキングコースの整備等にもう少し努力したい。楽しく有意義なイベントを次年度も企画してみたいと思います。
5. その他
過疎高齢化の著しい集落ですが、一緒に活性化に努力する、その中で、村人と心を交わせた気がします。

団体情報

〈団体名〉水の会
 〈代表者〉二見 剛史
 〈設立日〉昭和58年3月1日
 〈会員数〉26人
 〈主な活動内容〉
 ・「竹山・水辺の里」周辺及び竹山ダム公園の環境整備
 ・中世山城探訪（竹山城、高松城）
 〈連絡先〉
 所在地 〒899-6405
 霧島市溝辺町崎森 2731-5
 TEL 0995-58-3878 (FAX 兼用)

自主ミュージカル事業

<きりしま創造舞台>

事業費：4,501,326円

市補助金：276,000円

目的（背景・課題）

私たち「きりしま創造舞台(旧はやと創造舞台)」は、平成16年8月隼人町合併50周年記念事業として公演した住民参加型のミュージカル「ひかるの夏―風と光の故郷」の実行委員会が母体となり、平成17年3月に「地域の人とともに汗を流し、新たな文化を創造すること」を目的に設立、プロのミュージカル劇団や音楽家を招聘し、市民の皆様にご鑑賞していただく活動を続けている市民劇団です。

平成22年は、霧島市が誕生して5周年の記念すべき年となります。それをお祝いし、6年ぶりに住民参加型のオリジナルミュージカル公演を計画しました。

昨年度は、この補助金制度の助成を受けて、プレ企画として事業のPRと仲間づくりを目的とした自主制作のミュージカルを初めて公演し、成功を収めました。

今回の作品は、私たちの故郷霧島市の自然、文化、歴史や史跡を取り入れ「絆」と「明日への希望」をテーマにした作品です。今回の公演を通して、市民の皆様と一緒に5周年をお祝いすると同時に、直接、役者やスタッフとして参加していただくことでミュージカルをより身近に感じていただき、それを通してわが故郷霧島市の一体感の醸成と文化発展に寄与することを目的としています。



事業内容

○霧島市制5周年記念市民参加型オリジナルミュージカルの公演「ひかるの夏2010～龍馬からの伝言～」

①役者オーディションの開催

平成22年3月に実施し、52名が参加し全員が合格しました。役者、実行委員とボランティアとで総勢160名ほどになりました。

②稽古

平成22年3月21日から稽古を開始し、公演日までに全53回を数えました。(5月までは週2回、6月以降は週3回。)

③お披露目会

平成22年6月11日に実施。

国分シビックセンター多目的ホールにおいて、PRとチケット販売を開始。

④合宿

平成22年7月24日、25日に実施。1泊2日。

いきいき国分交流センターにおいて、稽古と挿入歌を収録。

⑤小道具・衣装の製作

平成22年5月から8月に作成。

実行委員会製作部を中心にボランティアスタッフや役者の保護者の方々と協力して作成しました。

事業の成果

市制5周年を記念して公演したオリジナル作品であったので、観覧されたお客様から霧島市の自然や歴史、文化を知ることができて良かったとの多くの感想をいただきました。

また、公募で参加した役者はもちろんのこと、観劇に来られたお客様に公演のテーマであった「絆」と「明日への希望」を感じていただけたと思います。

自己評価

1. 事業効果

期待していた以上の効果が上がりました。

2. 改善すべき課題

- ・中長期的な資金運営ができる体制づくりの検討。
- ・組織強化（NPO法人化等）の検討。
- ・当日ボランティアスタッフへの説明の周知徹底。

3. 予算執行

ほぼ予定どおり執行できました。

4. 今後の展望

今回の公演をきっかけに市制5周年記念式典への出演の機会をいただきました。また、この出演を布石に平成25年の大隅建国1300年記念オリジナルミュージカル公演に向けて、市と協働して作品づくりに取り組みたいと考えております。

5. その他

公演を通して、演じる側も見ていただいたお客様もわが故郷「霧島市」の文化、自然、歴史において、知らなかったことを再発見でき、郷土の素晴らしさを改めて再確認できたことは大変意義深いことでありました。



団体情報

〈団体名〉きりしま創造舞台

〈代表者〉会長 竹下 淳一

〈設立日〉平成17年3月18日

〈会員数〉31人

〈主な活動内容〉

- ・平成21年自主制作ミュージカル「ひかるの夏2010への道」公演
- ・平成20年劇団ドリームカンパニー「ハロー、天使です！」出演
- ・平成19年KKBふるさとCM大賞制作「優秀賞」受賞 ほか

〈連絡先〉

所在地 〒899-5105

霧島市隼人町小田 613-2 ゆめみ館

<http://ksouzoubutai.web.fc2.com/>

E-mail kirishima_c_s@yahoo.co.jp

ふるさと自然林再生活動

<霧島ふるさと命の森をつくる会>

事業費：1,185,445円

市補助金：500,000円

目的（背景・課題）

霧島は日本で初めての国立公園に指定されたすばらしい地域である。しかしながら、自然林が再生しないなどの問題が起り始め、国立公園としての魅力が減少する可能性がある。このことは、環霧島会議でも大きなテーマとなっている。

そこで、霧島市の山林や原野、都市公園、街路樹をふるさとの木の植生で再生するために、どんぐりから育苗し、子どもたちとの環境学習のためのどんぐり拾いや自治会・学校などと一緒に森づくりをしていく。

植林方法は、横浜国立大学名誉教授の宮脇昭先生の密植方法で行っていく予定である。

事業内容

常緑広葉樹のシイ、タブ、カシ類を中心に植物生態学者の宮脇昭先生の方式である混植・密植による植樹会を2回に分けて実施した。

4号地植樹会

- 日時 平成22年10月14日（木）10時～
- 場所 牧園町高千穂柳ヶ平
- 活動内容 自然観察会と植樹会
- 参加者 175人
- 面積 400㎡
- 植樹本数 1,300本
- 指導者 植物生態学者宮脇昭先生

5号地植樹会

- 日時 平成22年11月13日（土）10時～
- 場所 牧園町高千穂柳ヶ平
- 活動内容 自然観察会と植樹会
- 参加者 157人
- 面積 400㎡
- 植樹本数 1,280本
- 指導者 県立博物館学芸員寺田先生

※ 会場において、どんぐり株主を募集して、株券を購入していただいて植樹会への参加意識を高め、自然再生への意識の醸成に努めた。



10月14日自然観察と植樹会

事業の成果

- ・霧島の自然再生に寄与できた。
- ・子供たちにカーボンオフセットのことを含め、地球規模の環境問題について学習を深めることができた。
- ・11月13日はみやまコンセールにおいて平成22年度自然公園ふれあい全国大会が開催され、同大会の地域イベントとして植樹会が位置づけられ、多くの集客を図ることにより大会の盛り上げに寄与した。



11月13日自然公園ふれあい全国大会

自己評価

1. 事業効果
期待した効果が上がった。
2. 改善すべき課題
若い会員が少なく実働スタッフがいないので、若い会員の募集が必要である。
3. 予算執行
ほぼ予定どおり執行できた。自主財源である「どんぐり株券」の販売がずれ込み財源不足を心配したが、会員の努力で目標をクリアすることができた。
4. 今後の展望
平成23年度から10年間に10万本を植林する市の基本方針がうちだされ、市民・企業を巻き込んでなお一層の活動の展開を図る。
5. その他
市役所前にある第1号植林地の成長が、多くの市民の目に入り事業への理解が進んだ。



団体情報

〈団体名〉霧島ふるさと命の森をつくる会

〈代表者〉会長 蔵前 壮一

〈設立日〉平成21年2月

〈会員数〉86人

〈主な活動内容〉

- ・宮脇昭講演会・植林教室
- ・隼人中道地区公園植樹
- ・牧園町旧高千穂小跡地植樹
- ・企業の森づくり支援
- ・どんぐり拾い、種まき活動

〈連絡先〉

所在地 〒899-4332

霧島市国分中央一丁目7-32

TEL 0995-73-5580

FAX 0995-73-5581

霧島ふるさと再発見事業

<よもぎの会>

事業費：302,588円

市補助金：200,000円

目的（背景・課題）

古くから清水地区には、手づくりそばやよもぎ団子などの食材の製法が伝承されていたが、高齢化や食文化の変化などに伴いその製造技術が忘れ去られようとしている。地域の食文化を後世に伝えて残し、霧島市内に広めることを目的とする。

また、途絶えていた製法を再現した「お千代まんじゅう」をイベントなどにおいて製造実演することによって、古来の食材・食文化を伝承する。

事業内容

- ・7月10日 お千代まんじゅうの製造に関する講習会を開催。13名参加。
- ・10月27日 ミキサーなどの製造に必要な機器を購入。
- ・1月9日 清水地区の伝統行事である「鬼火焚き」において手づくりそばの製造実演を行うとともに、販売も行った。会員13名参加。
鬼火焚きには、地区住民を中心に約1,200人が参加。
- ・2月28日 北辰神社で行われる清水地区の伝統行事において、手づくりそばや、よもぎ団子などを製造実演し、販売も行った。会員11名参加。



お千代まんじゅう作りの講習会

事業の成果

1. 清水地区で、古来の製法を再現した「お千代まんじゅう」の製造の方法を会員の多くが習得することができた。
2. 地元の食材を使用した手づくりそばや、よもぎ団子の作り方を多くの会員が習得した。
3. 製造に必要な機器がそろえることができ、また、よもぎの会を通して、集団活動の機会が増え、会員間の絆が深まるとともにやりがいを感じた。



自己評価

1. 事業効果
期待していた以上の効果が上がった。
2. 改善すべき課題
特になかった。
3. 予算執行
ほぼ予定どおり執行できた。
4. 今後の展望
今後はよもぎの会の活動を通して、地域活性化のための活動に参加していきたい。
5. その他
メンバーの絆が深まり、また、私たちの活動が受け入れられていることを知って、自信が持てた。

団体情報

〈団体名〉よもぎの会

〈代表者〉大原 春江

〈設立日〉平成22年2月25日

〈会員数〉14人

〈主な活動内容〉

- ・各種イベントなどにおいて、手づくりそばや、よもぎまんじゅう、お千代まんじゅうの製造実演を行い、ふるさとの食文化を広く伝承する。
- ・各種イベントなどにおいて、ごきぶり団子の製造実演を行い、その利用を推進する。

〈連絡先〉

所在地 〒899-4304

霧島市国分清水1丁目25-12

TEL 0995-45-0539 (FAX 兼用)



人権教育・啓発事業

＜特定非営利活動法人「人権を守る会かごしま」＞

事業費：198,647円
市補助金：130,000円

目的（背景・課題）

2009年度中に霧島市内で部落差別発言、部落差別を助長する発言が続いた。また、「しょうがいしゃ」やハンセン病回復者等への偏見や差別も以前として社会の中に現存している。このような社会の状況を考えたとき、子どもたちへの人権教育はもとより、市民への人権啓発が重要な課題と認識できる。

そこで、社会の中に存在するあらゆる差別を解消し、差別なく尊敬し合う関係の構築に向けて、広く市民とともに未解決の人権問題について考えるための「人権フェスティバル」（仮称）を実施する。

事業内容

○「人権フェスティバル」の開催

- 8月10日 理事会
- 9月1日 理事会
- 9月9日 総会
- 9月22日 理事会(本事業の具体的推進策)
- 10月8日 第1回準備会
- 10月25日 第2回準備会
- 11月24日 第3回準備会
- 12月11日 第4回準備会
- 12月17日 人権フェスティバル2010 展示
～19日
- 12月18日 人権フェスティバル2010 講演会
- 1月13日 理事会(本事業の総括)

人権フェスティバルに向けて、理事会・総会を経て、会員を中心に準備を進めた。

人権フェスティバルは、国分シビックセンターで開催し、展示を講演会に先行してエントランスホールと市民ギャラリーにて行った。

講演会は、福岡在住の稲積謙次郎氏に「人権一



『わたし』からの出発」と題して、ジャーナリストの視点から見る人権問題についてお話しいただいた。講演会の出席者は90名で、出席者からは「もっと多くの人に聞いてほしかった。」等の評価を受け、初期の目的をある程度達成できた。

事業の成果

講演会を中心に、人権フェスティバルを開催したが、事業初年度ということもあってか出席者は90名であった。

今後回数を重ねていくことで定着させ、市民の人権問題に対する関心が高まり、同時に人権をキーワードとする地域ネットワークが構築できるものとする。

引き続き事業を継続していくことが大切であるとする。

自己評価

1. 事業効果
期待していた効果が上がった。
2. 改善すべき課題
講師を早期に選定し、案内等にも早期の対応をし、特に一般市民の出席者の増加を図る必要がある。
3. 予算執行
ほぼ予定どおり執行できた。
4. 今後の展望
なかなか実質参加動員が難しい人権問題への取り組みなので、引き続きたゆまぬ継続努力を図り、市民への啓発活動を進めていきたい。さらに、この事業をきっかけに人権をキーワードとする地域ネットワークの構築につなげていきたい。
5. その他
法人設立初年度の事業ということで、計画変更等実施までに紆余曲折を経たが、所期の目的をある程度達成できたと考える。次年度以降は、今回の経験を踏まえ、より充実した事業が実施できると思う。



人権フェスティバル2010

～ どんな人権問題があるのか、
「知ってるつもり」を問いなおしましょう ～

NPO 法人『人権を守る会かごしま』発足記念講演会

～ すべてのいのち 輝かすために ～

と き 2010年12月18日(土) 14:00～(受付 13:30)

と ころ 国分シビックセンター 多目的ホール

演 題 人権ー「わたし」からの出発

～ いのちを輝く「まちづくり」に繋ぐこと ～

講 師 稲橋謙次郎さん (元西日本新聞編集局長)



【講師プロフィール】

1954年 早稲田大学卒業後、西日本新聞社に入社。

1984年 西日本新聞で組織した全国読者ワークショップで日本新聞協会賞を受賞。

1986年 国分市議会議員に立候補し、初当選。以後、長年に亘り行方。

現職 福岡県人権啓発推進協議会会長、社会系人権啓発協議会会長などを務める。

人権問題に関する展示

と き 2010年12月17日(金)～19日(日)

と ころ 国分シビックセンター 市民ギャラリー・エントランスホール

主 催 特定非営利活動法人『人権を守る会かごしま』(連絡先：099-6564-0461 稲橋)

共 催 国分市

後 援 国分市教育委員会、霧島市PTA連合協議会、霧島市物品購買協議会、

霧島市立北宮高児童発達支援センター、道合かごしま結核予防会地域協議会

国分市立伊佐地区公民館、国分市立伊佐公民館、国分市立伊佐公民館図書

国分市立伊佐地区公民館、国分市立伊佐公民館、国分市立伊佐公民館図書

国分市立伊佐地区公民館、国分市立伊佐公民館、国分市立伊佐公民館図書

団体情報

〈団体名〉 特定非営利活動法人

『人権を守る会かごしま』

〈代表者〉 理事長 加来 宗暁

〈設立日〉 平成22年8月2日

〈会員数〉 45人

〈主な活動内容〉

- ・ 人権意識の普及・高揚を図るための人権教育、啓発事業

〈連絡先〉

所在地 〒899-6401

霧島市溝辺町有川 503

TEL 0995-59-2321

FAX 0995-59-2924

美しい湧水の郷再生事業

< 特定非営利活動法人 NPO しきね >

事業費：243,375円

市補助金：117,000円

目的（背景・課題）

敷根地区は下水道施設がなく、多くの家庭から生活雑廃水が未処理のまま側溝、用水路、河川に流入して海へ流れ込んでいる。この結果、かつてホタル、トンボが飛び交い豊かな自然を感じさせていた故郷の面影は無く、また下井海岸・敷根海岸の海水汚染の度合いは年々悪化の一途をたどっている。

水質汚染の一原因である生活雑廃水による汚染の実態調査を、昨年に続いて子ども育成会、公民館と協働で行うとともに、昨年度の水質浄化実験で効果が明らかになった竹炭利用の水質浄化技術を実用化に向けて展開し、美しい湧水の郷再生を目指したいと考えている。

この活動の中で子どもたちの環境問題学習と住民の環境問題への意識改革にも取り組んでいきたいと思っている。

事業内容

○水質調査

今年度で敷根地区の川、用水路、側溝の水質調査は3年になり、今年度も公民館、子ども育成会と協働で、8月21日（予備学習）、22日（水質調査）の二日間実施した。のべ参加数は小中学生32名、大人18名で、水質調査は5班に編成し、各班に調査地点を割り振って実施した。

調査方法は、①調査水域の水質の簡易化学分析と、②同水域の水棲生物による判定（環境省の「水棲生物による水質判定」）に基づいた二通りの方法で行った。前年度同様、今回の調査でも①と②の結果はよく一致し、下水施設が無く、合併浄化槽の設置も遅れている敷根地区では、家庭排水による水質汚濁が大きいことが明らかになった。



○水質浄化実験（本格実施に向けて予備テスト）

昨年度の予備テストの結果に基づいて、幅約1メートル、水深10cm、流速90cm/secの水路（家庭排水が多量混入した水路）に、堰を作り、そのすぐ下流に浄化柵（幅50cm、長さ120cm、高さ50cm）を設置した。この柵に、約3cm角に裁断した竹炭7.5kgの入った網袋4袋を入れた。堰の水（原水）を柵に導入し、流入原水が1日滞留後流出するよう柵からの流出量を調整した。原水と流出水（浄化水）の水質をパックテストで経日チェックした。

その結果、実験初期の柵内のアルカリが中性になるとともに、柵の水質浄化作用が高くなり、原水より、浄化水のCODが低下した。昨年（2019年）の予備試験の結果とよく一致しており、更なる拡大テストへの取組みを支援する結果が得られた。



写真（5）浄化柵用竹炭（約3cm角）



写真（6）浄化用竹炭



写真（7）水路に堰・浄化柵の設置



写真（8）堰・柵の設置状況

事業の成果

水質調査を、公民館、子供育成会と協働で実施しているため、公民館員の関心も年々高まっている。今年度、家庭排水のみが流入している側溝を調査した子供たちが、汚れのひどさを指摘。その結果、この側溝をきれいにする清掃作業に、側溝に家庭排水を出している住民と敷根の消防隊有志が取り組んだ。すばらしい効果の一例である。

今回調査では、子供たちに水質調査隊の名札を作って渡したところ、子供たちの意欲が大きく向上した。今後の各種取組みに活かして行きたい。また、子供たちは環境問題と同時に身近にいる水生生物についても関心を深めることができた。

竹炭による水の浄化は、水路での試験の結果、実用化に向けての課題が把握できた。第一に浄化水路の設計であり、第二に水質浄化に適した竹炭サイズへの裁断とこの網袋詰め、第三に大量の竹炭の確保である。また、水路に設置した竹炭には泥が沈積するため定期的にこれを振り落とすことと定期的な竹炭差し替えが今後の課題である。これらについては、来年度の実用テストでさらに煮詰めていき、実用化を進める予定である。

竹炭のアルカリ性とその大きな吸着性能から、土壌改良剤としての可能性、また同時に生産される竹酢の防虫効果等も見出され、農業資材としての竹炭の可能性が広がったのも大きな成果である。

自己評価

1. 事業効果

期待していた以上の効果が上がった。

2. 改善すべき課題

水浄化用の竹炭製造が思いのほか人工数を要した。今後作業工程等の工夫が必要である。竹の間伐の必要性も、切り出し作業の中で明らかになった。「山を守る＝海を守る」であり、この点からも、竹炭利用に取り組む必要を感じた。

3. 予算執行

ほぼ予定どおり執行できた。

4. 今後の展望

水質調査は今後も継続し、地域の環境意識向上につなげたい。水質浄化は来年度さらに拡大した実用実験を行い、事業としての本格実施段階に進む予定。

5. その他

事業推進を、公民館、子供育成会と共同して進めることにより、地域に密着した活動に成長し、大きな成果を上げている。水質調査をする中で、子ども達から指摘された排水溝の汚れを、住民と敷根消防隊の有志が参加して清掃を行ったのは、この顕著な例である。

団体情報

〈団体名〉 特定非営利活動団体

NPOしきね

〈代表者〉 古川 繁郎

〈設立日〉 平成 20 年 9 月 5 日

〈会員数〉 19 人

〈主な活動内容〉

- ・敷根地区河川等の水質調査と浄化
- ・歴史研究会の開催
- ・菊花展等各種イベント開催
- ・子ども学習会の開催など

〈連絡先〉

所在地 〒899-4501

霧島市国分敷根 1059

TEL 0995-71-0885 (FAX 兼用)

霧島市民に心肺蘇生・AEDを普及する事業

<霧島心肺蘇生の会>

事業費：365,430円

市補助金：182,000円

目的（背景・課題）

近年、突然の心肺停止患者に対して、傍らにいる人(bystander)が、有効な心肺蘇生と必要ならAEDを使用することで生存率や社会復帰率が上がってきています。特に患者が社会復帰できているのは、bystanderがいた場合のみであるといっても過言ではありません。

そこで、心肺停止患者の蘇生・生存・社会復帰をさせるため、霧島市民に心肺蘇生・半自動除細動器(AED)の啓発と、その技術習得をしてもらおうと思いました。現在、消防で同様の活動を行っていますが、当会は市民に会員になってもらって主体的に手技を覚えたり、普及に努めていただきたいと考えております。

イベントや小人数の集まりの際に、短時間の講習を行い、さらに手技を深めたい市民には、消防の3時間講習やアメリカ心臓病学会公認コースを案内いたします。



事業内容

○各種イベントでの啓発と講習会

下記のイベント等において、心肺蘇生・半自動式除細動器(AED)の宣伝、その技術習得及び救護活動を行いました。

①各種イベントでの啓発と講習会の実施

	受講者数
7/4 消防局救命講習	31人
7/18 消防局救命講習	26人
7/31 主催講演会	18人
10/10 隼人町生涯スポーツ祭	12人
10/16 霧島市花火大会	10人
11/7 消防防災フェスタ	61人
2/6 霧島市健康福祉祭り	63人
2/20 初午祭	10人
計	231人

②各種イベントでの救護活動

	搬送者数
2/13 永水地区歩こう会	6人
3/19 龍馬ハネンウォーク1日目	3人
3/20 " 2日目	0人
計	9人

③講演会の主催

	聴講者数
7/31 主催講演会	53人

事業の成果

各種イベントに参加し実際に講習を受けてくださった方からは、「見たり聞いたりはしていたけれど、実際に蘇生術を体験できて良い機会だった。勉強になりました。これからも折りにふれて講習会で経験を積んで行かないといけませんね。」など、心肺蘇生術の重要性と訓練していないと、いざという時にはできないという認識をもっていただきました。

また、子どもと母親、高齢者とその息子・娘が参加されましたが、実際に子どもや高齢者が心肺停止に陥った際に、母親や息子・娘がバイスタンダーになる可能性が高いため、真剣に講習を受けておられました。すぐに有効な心肺蘇生が行われる可能性が高いと思われます。

救護活動では、歩こう会で気分不良や熱発の方を会員で福祉タクシー業者の方が9名搬送しました。

設立1周年記念講演会では、53名の聴講者がありました。第1部では実際に心肺停止となった方が社会復帰した事例を、当事者に体験談として発表いただいたのですが、聴講者の中には感涙される方もいらっしゃいました。第2部は心配蘇生術講習会として実施し、皆真剣に受講され「非常に勉強になった等」の声もあり、心配蘇生術の重要性を認識いただいたと思います。

自己評価

1. 事業効果
期待していた効果が上がりました。
2. 改善すべき課題
特にありませんでした。
3. 予算執行
多少の変更がありました。
会員が増え、講師参加時の交通費支給額が増加しましたが、講師謝金と事務費は予算額よりも少なく済みました。
AEDトレーナーは、今回は必要性が低かったため、未購入としました。

4. 今後の展望

今後も、市民の救命率向上のため、引き続き心肺蘇生術の指導に重点をおいて、一人でも多くの市民が蘇生術を習得するよう活動したいと思います。

5. その他

指導する会員の指導要領の統一と技量が同レベルになるようにしていきたい。そのために、会員に対しての勉強会等を企画したいと考えています。



団体情報

〈団体名〉霧島心肺蘇生の会

〈代表者〉福崎 雅彦

〈設立日〉平成21年4月16日

〈会員数〉72人

〈主な活動内容〉

- ・各種イベントでの心肺蘇生・AEDの啓発と講習会の実施
- ・市民のスポーツ同好会・少年団への出前講習会の実施
- ・歩こう会等での救護活動

〈連絡先〉

所在地 〒899-5112

霧島市隼人町松永一丁目37-1

TEL 0995-42-3564(FAX 兼用)

E-mail fukusaki-m@po.mct.ne.jp

バイオマス資源としての竹利活用事業化プロジェクト

<特定非営利活動法人 霧島サンバイオ>

事業費：420,898円

市補助金：280,000円

目的（背景・課題）

竹は搬出・運搬にコストがかかり、バイオマス資源として加工、利用する施設が無い等の理由で霧島市内では竹の利活用が進まず、山林や竹林が荒れ続けている状況である。

この厄介者の竹を地域の資源として利活用するため、霧島市内に竹チップ工場等を建設する可能性調査として、竹の効率的な搬出の研究及びチップ化・パウダー化の事業化研究を行い、霧島市バイオマスタウン構想に貢献する。

事業内容

○木質資源部会

7月から2月まで計10回開催し、放置竹林整備に向けての効率的な作業方法の検討等。

<参加数>各回5人程度

○定例学習会

8月7日・11月23日

<参加数>各回30人

<場 所>霧島市国分中央公民館

<内 容>

自然再生部、木質資源部、酵素研究部の各部事業の進捗状況報告や霧島市農政部との情報交換。

○先進地視察

10月22～23日

<参加数>合計5人

<内 容>

浜松市で竹粉碎機を製造し、竹の利活用の研究を行っている会社を視察し、竹の新たな用途の調査や集荷方法などについて研修を行い、今後の霧島市における竹林整備に役立てたい。



先進地視察



○バイオマスフェア

3月20日

<参加数>合計35人

<会 場>霧島市国分中央公民館

<内 容>

竹林面積日本一の鹿児島県で、荒れた放置竹林を生かす道がこれからの地域活力を生み出す原動力であるということで、「竹」をテーマに講演会を実施。

・「竹粉の農業と畜産への活用事例報告」

キャタピラー九州 柳本 幸一郎氏

・「九州・全国の竹の利活用について」

NPO法人熊本有機農業研究会 野口 慎吾氏

・「竹取物語 改めて知る竹の威力、魅力！」

鹿児島県竹産業振興会連合会 濱田 甫氏



事業の成果

- ・ 定例学習会やバイオマスフェアの開催により、一般の市民に放置竹林の現状と問題点を周知することができた。
- ・ 放置された竹林の整備に着手することができ、ノウハウを習得する機会ができた。
- ・ 先進地視察により、竹粉の飼料・肥料・燃料等の利活用の可能性を見い出せた。また、たけのこ販売先としての提携の可能性も見い出せた。
- ・ 実際にたけのこ生産に携わる方々との情報交換を行えるようになった。

自己評価

1. 事業効果
期待した効果が上がった。
2. 改善すべき課題
現在の伐竹、運搬の方法では、予想以上のコストがかかることが分かった。
引き続き更なる効率化を図らなければいけない。

3. 予算執行
講師の都合により、バイオマスフェアを予定していた2月末までに終了することができず、変更が生じた。
(3月20日に実施。)
4. 今後の展望
伐竹、運搬の更なる効率化のために、実地での作業を進め、竹林整備マニュアルを作成する。
たけのこの販路を確立したい。
5. その他
全くの手探りから始めた事業であったが、計画より早めに初年度から竹林整備に着手できたことは評価できる。

団体情報

〈団体名〉 特定非営利活動法人
霧島サンバイオ

〈代表者〉 理事長 大坪 徹

〈設立日〉 平成 19 年 12 月 14 日

〈会員数〉 43 人

〈主な活動内容〉

- ・ バイオマスの利活用等に関する事業
- ・ 地域産業振興等に関する事業

〈連絡先〉

所在地 〒899-6404
霧島市溝辺町麓 391-5

TEL 0995-58-2206
FAX 0995-58-3086

アート&アグリで make confidence

＜特定非営利活動法人 Ryouiku Circle はなはな＞

事業費：1,007,290円

市補助金：420,000円

目的（背景・課題）

在宅で生活する発達しょうがいを持つ子供達に、絵画、音楽と農業を体験し、体力・音楽・絵画能力をさらに伸ばしていけるよう専門家などによる指導の機会を提供することと地域でこのような指導者を育成することを目的としています。

これまで発達しょうがいを持つ子ども達を対象とした絵画教室は余り例が無かったことから、昨年度の事業では多くの方から関心と問い合わせをいただき、“絵画（創作活動）を楽しむ”という目標を達成することができました。今年度の事業では子ども達の作品を広く知っていただくために、展示会の開催と画集の作製も予定しています。

リトミックでは昨年度まで音楽を使って体を動かす楽しさはもちろんのこと、親子で活動することの意義を理解していただけるようになりました。今年度はさらに多くの方に参加いただけるように実施回数を増やすと共に、アルバム・文集の作製を行い、これまでの子ども達の成長を振り返り、リトミックの意義について検討する予定です。また、参加者と講師・スタッフからは活動の意義について高く評価されるものの、参加者数の増加が課題となっています。このため今年度は打ち合わせの回数を増やし広報の方法についても毎回検討することとします。

農業・調理体験では自分の係の仕事を協働して行い、最後に美味しく食事を摂るといった達成感を持ち帰っていただくことができました。今年度は講師に専門職を招き体験活動での体の使い方や作業手順などの指導も取り入れる予定です。

また、3つの活動全てで、今後指導に当たっていただける市民ボランティア・講師の養成にも、つなげていきたいと考えています。

事業内容

○リトミック、音楽療法

＜参加数＞合計 209名

＜場 所＞国分総合福祉センター

＜開催日＞平成22年9月5日（33名）

平成22年9月7日（12名）

平成22年10月5日（24名）

平成22年11月7日（26名）

平成22年11月9日（25名）

平成22年12月5日（35名）

平成22年12月7日（23名）

平成23年2月6日（31名）



○絵画教室

＜参加数＞合計 124人

＜会 場＞国分総合福祉センターほか

＜開催日＞平成22年7月25日（35名）

平成22年10月31日（20名）

平成22年11月28日（37名）

平成23年1月30日（37名）

○農業体験

＜参加数＞65名

＜会 場＞off 前原農場

＜開催日＞平成22年8月8日

○食事に関する勉強会、生活支援の勉強会

〈参加数〉79名

〈会 場〉国分総合福祉センター

〈開催日〉平成 22 年 11 月 7 日 (41 名)

平成 23 年 2 月 13 日 (38 名)

事業の成果

リトミック、絵画教室はそれぞれ4年目、3年目の活動となり内容、参加者数ともに充実してきました。

リトミック・音楽療法は、今回より、対象の方の特性に合わせて会場、日程、内容を変えることで参加者の幅を広げることができました。

絵画教室は、新規の方もいらっしゃいましたが多くは継続して参加された方で、“絵画(創作活動)を楽しむ”ことはもちろん、作品として展示する機会を持つことができました。

展示会は熊本のNPOの協力により、熊本市内のギャラリーで開催することができました。



食事に関する勉強会



生活支援の勉強会



絵画の展示会



自己評価

1. 事業効果

期待した以上の効果が上がりました。

2. 改善すべき課題

今回は特にありませんでした。

3. 予算執行

助成金の減額や、講師の骨折による日程変更などにより、多少の変更がありました。

4. 今後の展望

いずれの活動においても市民レベルでの講師補助の希望者も出てくるなど、活動の広がりも少しずつ見えてきました。今後はアピールできる場を設けていくことで、人に優しい文化が匂うまちづくりに貢献していきたいと思えます。

団体情報

〈団体名〉特定非営利活動法人

Ryouiku Circle はなはな

〈代表者〉前原 利彦

〈設立日〉平成 21 年 4 月設立登記

(平成 18 年 6 月から活動)

〈会員数〉11 人

〈主な活動内容〉

- ・個別療育(障害を持つ子どもや、その両親を支援する個別療育)
- ・リトミック、絵画教室など

〈連絡先〉

所在地 〒899-4332

霧島市国分中央二丁目 5-6

TEL 0995-73-4195 (FAX 兼用)

URL : <http://hanahana.offmaehara.com/>

「清水ほたるの杜」再生事業

事業費：300,304円

<清水ほたる愛好会>

市補助金：200,000円

目的 (背景・課題)

現在日本列島には2科10属46種(2亜種)のホタルが記録されているが、成虫が良く発光するのは14種である。しかもホタルの種は、過去から未来永劫まで純血であり、交雑種は存在しない。「源氏ホタル」は日本固有な種であり、大型で、光りも強いので、昔から最も知られて、生息地と共に全国で10箇所が国の天然記念物に指定されている。

しかし、数千匹の「源氏ホタル」乱舞で、全国的にも有名な宮崎県小林市「出の山公園」は、幼虫激減により、今年「ホタルの夕べ」を中止する等、「源氏ホタル」を取り巻く環境は厳しい。

そこで、「清水ほたるの杜」再生を目指すため、「源氏ホタル」の成虫を採取し、採卵・孵化、幼虫の養殖により復活、ホタルを通して自然と生き物と触れ合い、「清水ほたるの杜」を維持管理して将来に残し、又地域の大人と子供と協力しながら、「日本一」の癒やしの場所とすることを目的とする。

事業内容

○「源氏ホタル」幼虫の餌用カワニナ飼養管理

場所：清水ほたるの杜

期間：平成22年7月～平成23年2月

週2回、カワニナの飼養管理を行った。

- ① 清水ほたるの杜にある6ヶ所の「ホタルの里・宿」におけるカワニナの飼養管理は、餌として主にばれいしょ・カボチャ・キャベツ・白菜を給与した。
- ② 源氏ホタルの餌となるカワニナの採取補充は重要な作業であるが、主に青葉小学校付近の用水路で実施した。
- ③ カワニナの天敵はヒルであるが、ヒル退治はせずに、ヒルに負けないよう、ひたすらカワニナの補充をした。



ホタルの幼虫放流 (11月29日南日本新聞)

○源氏ホタル幼虫と餌用カワニナの放流

場所：清水ほたるの杜

期間：平成22年11月12日(金)

平成22年11月19日(金)

主な行事である子ども達による源氏ホタル幼虫とカワニナの放流を、12日に国分小3年生90名で、19日に川原小29名で実施した。

○遮光ネットの設置

場所：清水ほたるの杜

期間：平成23年2月～3月

「清水ほたるの杜」駐車場、用水路付近が、アパートの外灯で明るく、幼虫上陸及び成虫観察に支障があるため、事業費の約83%を費やして遮光ネットの設置を行った。

資材等の調達に時間がかかり、当初2月中旬に設置予定であったが、3月下旬に完成した。

○「清水ほたるの杜の一年」冊子の作成

これまでの「清水ほたるの杜」再生の取り組みを冊子にまとめ、これを教材として源氏ホタルの生態について、市民の大人から子どもまで学習することができた。

事業の成果

この事業の実施により、「清水ほたるの杜」の再生という大きな課題が解決され、源氏ホタルを通して自然と生き物と触れ合う霧島市の環境改善が図られたものと思う。

「清水ほたるの杜」の自然に優しい環境により、清水地区の住民の活性化が図られ、また源氏ホタルの養殖(成虫採取→産卵→孵化→幼虫飼育→放流)から成虫までの生態系を、市民の大人から子どもまで学習することができたと考える。



4. 今後の展望

源氏ホタルの幼虫の上陸及び乱舞する成虫を、市民がゆったり座って観察、鑑賞する簡易観客席(パイプで組み立て)を設置したい。

5. その他

源氏ホタルを養殖により再生することは、継続した情熱と各人の協力がなければ困難である。その点は素晴らしい組織であると思っている。



自己評価

1. 事業効果

期待した効果が上がった。

2. 改善すべき課題

源氏ホタル幼虫の斃死対策。一般に孵化した幼虫の生存率は約3～4割と言われているが、今回1万匹孵化した幼虫が250匹の生存と原因不明の斃死をしたことから、養殖場所の分散化を図ることを決定した。

3. 予算執行

ほぼ予定どおり執行できた。

団体情報

〈団体名〉 清水ほたる愛好会

〈代表者〉 米森 道明

〈設立日〉 平成22年5月8日

〈会員数〉 29人

〈主な活動内容〉

- ・源氏ホタルの養殖
- ・「清水ほたるの杜」の設置・管理
- ・「ほたるのタベ」の開催

〈連絡先〉

所在地 〒899-4304

霧島市国分清水二丁目 17-94

TEL 0995-45-5054 (FAX 兼用)

E-mail hiroschi_2500@ybb.ne.jp

日当山駅近辺の整備計画による日当山温泉の活性化事業

<日当山会>

事業費：169,692円

市補助金：100,000円

目的（背景・課題）

九州新幹線全線開通に伴い、鹿児島中央駅経由で肥薩線開通 100 周年を迎えた嘉例川駅や霧島温泉駅等へ観光客が増える事が見込まれる。

この機会に、肥薩線の日当山駅近辺の整備を行い「日当山駅」を「日当山温泉駅」に改称し、観光列車「特急はやとの風」の停車を実現して観光客の増加を図り、日当山地域の活性化と温泉街の発展を図る。



事業内容

- 7月 日当山駅広場構内にコスモスの植え付け
日当山駅トイレの清掃、駅舎の屋根修理
- 8月 日当山温泉マップの作成準備開始
- 9月 「日当山温泉観光スポットについて」鹿児島探検会東川隆太郎会長と一緒にまち歩き
- 10月 霧島市に要望する項目の取りまとめ開始
- 11月 霧島市に5項目の要望書提出
 - ①日当山駅西側廃屋対策
 - ②日当山駅周辺の道路整備
 - ③「宮内原用水路に沿った道路の改修」
 - ④「西郷どんの宿」の屋根修繕
 - ⑤「日当山地域の活性化対策の策定」

12月 「日当山まち歩き地図」の図案作成

1月 地図作成協賛店の看板作り

2月 「日当山まち歩き地図」の完成。8,000部を作成し、県・市の観光課、JR九州鹿児島支社、近隣のJR駅、銀行、鹿児島空港案内所協賛店等へ配布。

3月 九州新幹線全線開業のお祭り準備

九州新幹線全線開業のお祭りが東北関東大震災により中止。

地図作成協賛店の看板設置。



案内看板

日当山まち歩き地図

事業の成果

「日当山まち歩き地図」を作成し広く配布したことによって、日当山に多くの温泉が存在することが広く知れ渡った。また、地図の配布に当たり、行政はもとよりJRや空港等の組織団体との協力体制ができた。

日当山駅周辺の整備の要望について、行政に要望書を提出したことで、行政の取り組みを期待すると同時に地元にも真剣に取り組む姿勢ができてきた。また、花植えを行い、駅周辺の整備を行うことで、利用者の態度に変化が出てきたように思う。

自己評価

1. 事業効果

期待していた効果が上がった。

2. 改善すべき課題

急な組織の立ち上げで周りの認識も薄く会員も少なかったが、活動を重ねるたびに認識も高まり、周辺の賛同者(団体含む)が現れるようになった。今後は会員、特に女性の増加を行い活動の活性化を図る。

3. 予算執行

〈多少の変更があった。〉

事業を行うのも初めてのことが多く、予算作成時と事業実施時には多少の差異が生じた。

4. 今後の展望

日当山の活性化のためには、温泉の有効活用を一層図ることが重要であるので、今後温泉を主体とした事業を行うと共に、日当山駅周辺の整備を行政の力を借りて行い、地域の豊富な観光資源の活用により観光客の増加を図り、まちの活性化を図る。

5. その他

この事業を経験し、周辺には地域の活性化を真剣に考えている人、団体が多く存在することを知り、今後の活動に自信がもてるようになった。



団体情報

〈団体名〉 日当山会

〈代表者〉 濱田 勝弘

〈設立日〉 平成 22 年 5 月 7 日

〈会員数〉 19 人

〈主な活動内容〉

- ・ 日当山まち歩き地図を作成し、温泉の案内看板を設置し、日当山温泉をPR。
- ・ 日当山駅の花壇整備と花植え。
- ・ 日当山温泉の道路サポーターとして国道 223 号線沿いの清掃作業の実施。

〈連絡先〉

所在地 〒899-5115

霧島市隼人町東郷 1-134

TEL 0995-42-3681 (FAX 兼用)

子どもフェスティバル ～みて つくって あそぼう！～ ＜きりしま・国分子ども劇場＞

事業費：263,083円
市補助金：174,000円

目 的 (背景・課題)

子どもたちのあそびが、ゲーム機など自ら工夫したり仲間とのコミュニケーションなしで遊ぶことが多くなってきた。このことで子どもたちに人とつながって遊ぶ楽しさを体験する機会が失われてきた。生の舞台を見ることで楽しい時間を共有する心地よさを自然に体験する機会と作る。

また、遊びのワークショップを通じて遊び道具を作ったり、仲間と遊ぶ楽しさを体験したり、地域の人の素晴らしい技術にふれる機会をすることで、遊びの輪が広がり生き生きとした子どもの活動につながることを目的とする。

事 業 内 容

はせがわ天晴さんの舞台を楽しみ、伝承遊びなどを楽しみ、遊び道具を工夫しながらそれぞれで作り、自分の作った道具で遊ぶ楽しさを体験する。

- 6月 はせがわ天晴さんとの公演の打ち合わせ
- 7月 日程・内容の詳細検討
- 7月10日 はせがわさんと時期確認・決定
- 7月22日 子どもフェスティバルの広報宣伝開始
- 8月19日 子どもフェスティバルの実施
- ・はせがわ天晴さんの舞台
パントマイム・バルーンショー
 - ・遊びのワークショップコーナー
伝承遊び(竹とんぼ・割り箸鉄砲)
お手玉遊び(お手玉・ジャグリング)
バルーンアート
エコおもちゃ



＜はせがわ天晴ショー＞

事 業 の 成 果

生の舞台に触れることで、役者の迫力や技のすばらしさを実感する良い機会になった。また、もう一度見たい、また来てほしいと次回を期待する声が多かった。

遊びのワークショップでは、それぞれのコーナーで遊んでみて、自分で作る意欲につながり、「なぜ」、「どうして」とそれぞれが工夫するきっかけが見つけれられるよう講師が声かけを行うことで、遊びをより楽しむことができたようである。

地域の遊び名人とのつながりが生まれ、今後の遊びの輪が広がりそうである。子どもにとっては、既製品の遊び道具でなく、自分で作る遊び道具や遊びの楽しさを実感できる場となった。



遊びのワークショップコーナー

自己評価

1. 事業効果

期待した効果が上がった。
2. 改善すべき課題

実施時期は夏休みと考えたが、本事業採択決定の時期を考えると秋の休日や冬休みを候補としても良かった。広報が丁寧になったり、参加者が多くなる可能性があるように思われた。
3. 予算執行

ワークショップのコーナーが増えたことと、講師が前日都合により宿泊しなかったため、多少の変更があった。
4. 今後の展望

子どもたちが集まりやすい地域での遊び会や、遊びワークショップを開催し、よりたくさんの子どもが作る楽しさと遊ぶ楽しさを実感できる機会を増やしていきたい。

団体情報

〈団体名〉 ぎりしま・国分子ども劇場
 〈代表者〉 西加 八重
 〈設立日〉 平成 19 年 6 月
 〈会員数〉 59 人
 〈主な活動内容〉

- ・鹿児島県子ども芸術祭典の実施
- ・子どもに関わる大人のためのコミュニケーションワークショップ
- ・あそびのワークショップなど

〈連絡先〉

所在地 〒899-6603
 霧島市牧園町高千穂 3584-36
 TEL 0995-64-4115 (FAX 兼用)

きりしま学童こどもまつり

<霧島市児童クラブ連絡会>

事業費：368,310円

市補助金：150,000円

目的（背景・課題）

霧島市内の各児童クラブの子どもたちを一堂に集め、スポーツ・レクレーションを通じて、楽しさを共有することで、異なった地域間や異年齢の交流が生まれ、子ども同士のつながりが確かなものとなるものと考えています。

また、「まつり」の企画段階から、各学童の子どもたちの声が反映されるような仕組みを作り、さらに、「まつり」を通じて、地域に学童の認知度を高める広報活動にも取り組みました。

事業内容

○きりしま学童こどもまつり

平成22年8月24日(火) 10:00~16:30

場所：霧島市溝辺町「上床公園」

主催：きりしま学童こどもまつり実行委員会

後援：霧島市、霧島市民生委員児童委員協議会連合会

参加者：児童	370名
指導員	56名
保護者	18名
来賓・民生児童委員	10名
ボランティア	13名
合計	467名

今回は、暑い中、熱中症が心配されましたが、370名の子どもたちは元気いっぱい遊び、夏休みのよい思い出づくりになりました。13のクラブが参加し、他のクラブの子どもたちと交流ができて、楽しく過ごせました。霧島市の児童福祉課と管内の民生児童委員の参加もあり、学童保育について理解がいただけたと思っております。

午前中は、野外運動場でキックベースやドッジボール、午後からは体育館内で、ジャンケン列車

やボール運びゲームなどに汗だくになりながらも元気いっぱい夏休みの一日を過ごしました。

(経過)

- 5月20日 第1回実行委員会
- 5月27日 企画委員会
- 6月25日 第2回実行委員会
- 7月2日 企画委員会
- 7月10日 企画委員会
- 7月12日 企画委員会
- 7月13日 第3回実行委員会
- 8月24日 きりしま学童こどもまつり
- 9月17日 第4回実行委員会(反省会)



事業の成果

企画委員会が中心となって、内容から場所の手配などを行うことにより、各児童クラブの参加意識が高まったと思います。また、小規模の児童クラブの子どもたちにとっては、他のクラブとの交流は刺激となっているようで、大勢の中で楽しく交流ができていると感じました。

民生児童委員にも参加いただき、学童保育の子どもたちに対する認知度が上がったものと考えます。地域の行事と関わりを持つような「まつり」としていくことが、学童保育事業の社会的な認知と必要性が理解されることにつながるのではないかと思います。

自己評価

1. 事業効果

期待した効果が上がりました。

2. 改善すべき課題

会場の確保と開催時期の設定を早めに確定すべきだったと思いました。

今回は夏休みの猛暑日で、熱中症対策、特に救護体制が看護師の配置を含めて課題が残りました。危機管理の意識と体制確保が必要であると感じました。

また、交流とレクリエーション・スポーツ等の時間配分について、もっと余裕のある設定とすべきと感じました。

3. 予算執行

ほぼ予定どおり執行できました。

4. 今後の展望

保護者が参加できるバザー等の企画や地域行事との関わりを持つようにしたい。

「まつり」が恒例行事となるよう、時期や内容、地域とのかかわり方等も含めて、定着させていきたい。

学童保育に通う子どもたちだけでなく、安心・安全の子どもたちの放課後を地域全体で見守っていく関係（支え合いのネットワーク）を作っていきたいと思っています。

スケジュール	
観音寺小ホール	10:00~11:00
スゴロウ広場	11:00~12:00
キッズホール	
チャペルホール	
キッズホール	
（昼 食）	12:00~13:00
いづみホール	13:00~14:00
キッズホール	
キッズホール	
キッズホール	
観音寺小ホール	15:00~

団体情報

〈団体名〉霧島市児童クラブ連絡会

〈代表者〉会長 加来 宗暁

〈設立日〉平成19年2月4日

〈会員数〉600人（指導員数と児童数）

〈主な活動内容〉

- ・きりしま学童子どもまつりの開催
- ・指導員「レクリエーション研修会」の実施
- ・学童保育「防犯セミナー」の開催
- ・指導員の新人研修会の実施 ほか

〈連絡先〉

所在地 〒899-4301

霧島市国分重久 2105-1

青葉児童クラブ内

TEL 0995-45-7800（FAX 兼用）

E-mail a-lopas@po.synapse.ne.jp

大隅横川駅活性化事業

<大隅横川駅保存活用実行委員会>

事業費：321,338円

市補助金：102,000円

目的（背景・課題）

昭和20年7月30日、大隅横川駅に停車していた貨車を米軍機が襲撃した際の機銃掃射の爪痕が駅舎の柱等に現存している。何とかして地域住民の手で駅舎を守り、活性化の拠点にしていこうという機運が高まり、平成19年6月、駅保存活用実行委員会を設立された。

以降、ひな祭りイベント、平和公園イルミネーション点灯式など各種イベントを手がけ、来場者の増を図るなど活性化に取り組んでいる。

巨大門松は、駅舎で行う成人式の成人者を祝い、併せて同駅の風物詩、名物となるようPRを行う。

事業内容

○ひな祭りイベントの実施

2月6日から3月31日まで、第3回の同駅ひな祭りイベントを実施した。

メインは石雛。駅舎前に約2.5トンの巨大石雛を置き、駅舎内は各種石雛、ひょうたん雛、パン雛、押し花の雛人形など多彩な雛人形をそろえた。1月下旬には、横川・溝辺・牧園・栗野地区に新聞折込でイベントの周知を図った。2月6日はオープニングイベントとして、芋煮鍋、ぜんざいの振るまいや自衛隊音楽隊の演奏などを行い、多くの来場者で賑わった。

期間中、3月13日には新幹線全線開業記念大隅横川駅発ミステリーバス&ウォーキングツアーを開催。3月20日の全国都市緑化フェア回遊拠点完成記念イベントは、震災による自粛のため中止した。

ひな祭りイベント期間中、書表現作家として有名な阿羅こんしん氏の特別行脚展を同駅舎内で開催し、平日で150～200人、土日で400人以上の方が来訪した。（3/19～4/3の期間。）



ひな祭りオープニングイベント

○イルミネーション点灯式の実施

12月5日、大隅横川駅平和公園及び駅舎周辺にイルミネーションを設置。

前年より電飾の規模を拡大し、今年度は5万球を点灯した。横川町建設同志会、横川管工事組合の支援もあり、地域ぐるみで点灯式を行った。横川小児童がハンドベルの演奏し、華を添えた。点灯期間は12月5日から1月末までで、町内はもとより、遠方からの来訪者も多かった。



ハンドベル演奏

イルミ点灯



○巨大門松の製作

12月5日に駅舎前に巨大門松を設置した。過去最大の大きさで、直径2.5m、高さ3.2m。竹切り、竹運搬、土嚢づくり(門松の片方に150個の土嚢)などを設置日の前週から実行委員で行った。

もともと、駅舎で行われる成人式の成人者を祝い、同駅の名物になるよう、毎年製作してきたものである。駅舎前で記念写真を撮る光景がよく見られた。



巨大門松

事業の成果

今年度は、口蹄疫による平和コンサートの中止、震災の影響により全国都市緑化フェア回遊拠点完成記念イベントも中止せざるを得なくなり、補助金を充てる事業の選別に苦慮した。

ひな祭りイベントは3回目の実施になるが、駅舎前に巨大石雛を置くことがかなりの宣伝効果となった。イベント初日の自衛隊音楽隊の演奏や芋煮鍋のふるまいは客を引き寄せる手段として最適で、来訪者増につながったと思う。また、阿羅こんしん氏の特別行脚展を駅舎内で同時開催したことも、今回のイベントに拍車をかけた。

今年度は電飾の規模を拡大したことにより、駅周辺が一段と艶やかになり、来訪者も多かった。ただし、昨年使った電飾で使用できない物があり、購入及び設置委託に費用がかさんだ。

巨大門松は、同駅舎の風物詩として定着している。門松と駅舎を引っ掛けたアングルは、来訪者には格好の撮影ポイントになっていた。

自己評価

1. 事業効果
期待していた効果が上がった。
2. 改善すべき課題
特になかった。
3. 予算執行
口蹄疫や大震災の影響でイベント中止を余儀なくされたため、大きく変更する必要があった。
4. 今後の展望
今年度で当該事業の補助金は終了するが、活動は継続してこそ活性化につながっていくため、今後、同レベル以上のイベント等を展開していきたい。
5. その他
今回は、書表現作家の阿羅こんしん氏の行脚展を取り入れたことで、来訪者もすばらしい芸術作品に触れることができ、満足度を高めることにつながったと思う。

団体情報

〈団体名〉大隅横川駅保存活用実行委員会

〈代表者〉愛甲 信雄

〈設立日〉平成19年6月27日

〈会員数〉150人

〈主な活動内容〉

- ・平和コンサート
- ・駅舎ライトアップ
- ・巨大門松作製
- ・菜の花、桜植栽
- ・特急はやとの風5分間停車実現
- ・駅舎成人式挙行
- ・ひな祭りイベント
- ・阿羅こんしん行脚展 ほか

〈連絡先〉

所在地 〒899-6303

霧島市横川町中ノ263番地

霧島市役所横川総合支所地域振興課

TEL 0995-72-0511 FAX 0995-72-9366

市民活動の支援による地域活性化事業

＜特定非営利活動法人きりしま市民活動支援機構＞

事業費：940,000円

市補助金：500,000円

目的（背景・課題）

鹿児島県内には、民設・民営の市民活動(NPO)を支援する施設はなく、公設のボランティアセンターが細々とした活動の拠点となっている。市民活動の広がりに合わせて、市民の目線で専門的な知識をもって支援できるスタッフを擁する施設が求められている。

県内初の民間の市民活動支援施設として「霧島市市民活動支援センター」を自主事業として「コア・よか」の一角に設置した。

このセンターの充実を図り、市民のニーズの確に対応するため、本事業を企画し、霧島市と県共生・協働センターの協力を得て実施する。

事業内容

○市民の社会貢献の熱い思いを形に変え、その活動を支援するための指針として「市民活動(NPO)のすすめ」の作成

センターでの相談業務のテキストとして、また関係機関の窓口置き、手軽な手引きとして利用してもらうために小冊子を作成。

7～11月まで毎月第3水曜日に作成会議を行って内容を検討し、500部作成して関係機関に無料配布を行った。

○相談会、セミナーの開催

霧島市内で活動するNPO法人や市民活動団体の運営支援を行い、NPO活動に興味のある市民の相談に応じるため、相談会・セミナーを実施した。

相談会を毎週水曜日10時～16時まで「霧島市市民活動支援センター」で実施。

来館者のべ120名、電話相談者のべ104名

「もらえる助成金セミナー」「やさしい税・会計セミナー」「NPO法人設立セミナー」のセミナーをセンターで開催。(参加者32名)

○NPOマップの作成

予算の関係で今年の実態調査のみ行い、マップの作成まで至らなかった。



セミナーの様子



事業の成果

・「市民活動(NPO)のすすめ」の作成

市民活動団体を組織したい、NPO法人を設立したいなど市民のニーズに対応できる、読みやすい、手軽な手引きとして利用できる小冊子ができた。

・「相談会・セミナー」の開催

NPO法人設立を目指す方々の相談窓口として大いに機能し、相談者から感謝の言葉を多くいただいた。

運営支援、設立支援について、霧島市の補助機関としての役割を担うことができた。

NPO法人設立セミナーなど多くの参加者があり、設立された団体も4団体あった。



市民活動支援(NPO)のすすめ



セミナーのレジュメ

自己評価

1. 事業効果
期待した効果が上がった。
2. 改善すべき課題
市民活動支援センターとしての対応の幅に苦慮した。
3. 予算執行
(大きな変更を余儀なくされました)
相談内容が専門化し、鹿児島から専門家の派遣を受けた回数が多く、経費面で負担が多くなった。
4. 今後の展望
当面は、費用対効果を考慮して相談の予約があった場合のみ、相談室を設ける。活動発表の場(掲示など)、資料置き場としては存続。
5. その他
当初の予想を超える相談件数で、費用面に対応し難い状況になったので、相談者に応分の費用負担をしてもらうなど対策が必要。

団体情報

〈団体名〉 特定非営利活動法人
きりしま市民活動支援機構

〈代表者〉 理事長 西 勇一

〈設立日〉 平成 22 年 4 月

〈会員数〉 10 人

〈主な活動内容〉

- ・子育て一時預かり支援活動
- ・市民活動サポート活動
- ・まちづくりイベントの企画 ほか

〈連絡先〉

所在地 〒899-4332
霧島市国分中央三丁目 9-20
コア・よか2階

TEL 0995-48-6886
FAX 0995-48-6887

平成 22 年度 霧島市市民活動支援事業募集要項 (抜粋)

1 趣旨

近年、市民ニーズが複雑・多様化している中で、さまざまな市民グループが地域の課題の解決やよりよい市民生活の実現のために、自主的・自立的に活動を行っている。こうした市民グループが行う公益的(公共的)な活動に対して、その経費の一部を補助することにより、市民活動を促進し、共生・協働のまちづくりを進めるために、平成 20 年度から実施。

2 応募できる団体

ボランティア団体、NPO法人などの市民グループ (法人格の有無は問わない)
(主たる構成員が市内在住者等で、5人以上の団体。地区自治公民館・自治会は対象外)

3 補助対象となる事業

公益的(公共的)なサービスを提供する市民グループの活動
(これまでの活動を拡充する活動、新たに実施する活動)

4 補助額

補助対象経費の3分の2以内で、50万円を限度

5 補助の対象となる経費

事業を実施するために直接必要とする経費

6 審査・選考方法

書類審査とプレゼンテーション(事業計画発表)による選考審査会を開催し、決定。

7 審査基準

- (1) 公益性
事業の効果が、特定の者に限定されず、地域社会にひろく貢献するものであるか。
- (2) 地域社会における必要性(課題解決性)
地域社会の課題を的確に捉え、また、市民ニーズに対応し、その解決策として有効か。
- (3) 先駆性・創造性
応募団体の既存事業を発展・拡充するもの又は新たに実施するものであるか。また、迅速性・専門性など特性を活かしたものであるか。
- (4) 実現性
事業計画や実施体制は、具体的で実現可能なものであるか。
- (5) 将来性
活動・効果が一過性でなく継続性が期待できるか。また、ひろく波及効果が期待できるか。

8 事業スケジュール

平成 21 年 5 月 17 日	募集期限
6 月 16、23 日	書類審査(一次審査)
7 月 9 日	プレゼンテーション審査(二次審査)
7 月下旬	選考結果発表
7 月～翌年 2 月末	事業実施
平成 22 年 4 月 22 日	意見交換会

9 情報公開

応募状況、選考結果等について、公開

平成 22 年度 霧島市市民活動支援事業 応募・採択内訳

1 選考審査の結果

区 分	応 募	採 択
団 体 数	20 団体	20 団体
N P O 法 人	7 団体	7 団体
その他の団体	13 団体	13 団体
事 業 数	20 事業	20 事業
補 助 希 望 額	5,768,000 円	4,978,000 円

2 分野別内訳

分 野 別	応 募	採 択
保健・医療・福祉	2	2
まちづくり	7	7
学術・文化・芸術・スポーツ	1	1
環境保全	6	6
人権擁護・平和	1	1
子どもの健全育成	3	3
合 計	20	20

平成 22 年度 霧島市市民活動支援事業 実施結果

	分野	団体名	事業名	事業概要	補助額(円)
1	まちづくり	日当山夏祭り実行委員会	日当山夏祭り	子どもから大人まで総参加型の夏祭りを開催し、地域の活性化を図る。	425,000
2	環境保全	霧島連山登山クラブ・ボランティアレンジャーの会	霧島連山登山環境整備事業	より多くの人に霧島連山の自然に親しみ、自然の大切さを再認識してもらうため、登山リーダーの育成や登山道整備などジオパーク認定を見据えた登山環境の整備に取り組む。	197,000
3	子どもの健全育成	特定非営利活動法人霧島食育研究会	「霧島おにぎりプロジェクト」事業～田んぼの教育ファーム	植え方から食べ方まで、お米の食育体験の機会を提供する教育ファームに取り組み、お米のワークショップや活動をまとめた教材を作成・配布する。	400,000
4	環境保全	水の会	竹山ダム周辺の環境整備と文化活動	文化活動の実践道場として造成した「竹山・水辺の里」の環境整備を更にすすめながら、「水に感謝する夕べ」を開催するなど、水への理解・感謝を深める。	210,000
5	学術・文化・芸術・スポーツ	きりしま創造舞台	自主ミュージカル公演事業	霧島市制 5 周年を祝い、市民参加型のオリジナルミュージカル公演を開催することで、わが故郷霧島市の一体感の醸成と文化発展に寄与する。	276,000
6	まちづくり	ウイメンズ隼人	初午祭造形うま祭り	造形講座を開催し、造形の楽しさや技術を習得し、初午祭造形うま祭りを盛り上げる。 (事業中止)	0
7	環境保全	霧島ふるさと命の森をつくる会	ふるさと自然林再生活動	自然公園ふれあい全国大会が霧島市を中心に開催されることから、霧島山系の自然林再生活動として植樹祭を開催し、また地域と協働し鎮守の森再生活動に取り組む。	500,000
8	まちづくり	よもぎの会	霧島ふるさと再発見事業	古くから清水地区に伝承されている食材の製法を各種のイベントで実演することで、地域の食文化を後世に伝え残し、霧島市内に広める。	200,000
9	人権擁護・平和	特定非営利活動法人『人権を守る会かごしま』	人権教育・啓発事業	社会の中で存在するあらゆる差別を解消し、差別なく尊敬しあう関係の構築に向けて、広く市民とともに未解決の人権問題について考えるための「人権フェスティバル」(仮称)を開催する。	130,000
10	環境保全	特定非営利活動法人 NPOしきね	美しい湧水の郷再生事業	敷根地区の生活雑排水による汚染の実態調査と水質浄化の実用化に向けた実験を行い、子どもたちの環境問題学習や住民の環境問題への意識改革に取り組む。	117,000

	分野	団体名	事業名	事業概要	補助額(円)
11	保健・医療・福祉	霧島心肺蘇生の会	霧島市民に心肺蘇生・AEDを普及する事業	心肺停止患者を蘇生し社会復帰させるため、市民向けに心肺蘇生・半自動除細動器(AED)を啓発することと、その技術習得の講習会を開催する。	182,000
12	環境保全	特定非営利活動法人霧島サンバイオ	バイオマス資源としての竹利活用事業化プロジェクト	霧島市バイオマスタウン構想にのっとり、竹を地域の資源として利活用するための調査・研究を行う。	280,000
13	保健・医療・福祉	特定非営利活動法人Ryouiku Circle はなはな	「アート&アグリで make confidence	在宅で生活する発達障がい児を対象とした絵画・音楽の学習機会と農業体験の場を提供するとともに、指導者の育成を図る。	420,000
14	環境保全	清水ほたる愛好会	「清水ほたるの杜」再生事業	源氏ホテルの生態系を、大人から子どもまで学習でき、市民の癒しの場となるよう、「清水ほたるの杜」の再生を目指す。	200,000
15	まちづくり	日当山会	日当山駅近辺の整備計画による日当山温泉の活性化事業	日当山駅近辺の整備計画をもとに、日当山地域の活性化をさぐる。	100,000
16	子どもの健全育成	きりしま・国分子ども劇場	子どもフェスティバル〜みて つくって あそぼう!〜	子どもたちに、あそびのワークショップや生の舞台に触れる機会をつくるため、子どもフェスティバルを開催する。	174,000
17	子どもの健全育成	霧島市児童クラブ連絡会	第3回「きりしま学童こどもまつり」	市内の各学童の子どもたちを一堂に集め、学童こどもまつりを開催し、つながりを確かなものにするるとともに、学童保育の認知度を高める。	150,000
18	まちづくり	大隅横川駅保存活用実行委員会	大隅横川駅活性化事業	国の登録有形文化財である大隅横川駅を地域住民の手で守り、活性化の拠点、平和の発信地とするため、ひな祭りイベント、平和公園イルミネーション点灯式など各種のイベントを行う。	102,000
19	まちづくり	特定非営利活動法人霧島市への移住応援協会	移住者の地域コミュニティへの参加を支援する事業	移住者の生活スタイルの変化に対する不安を取り除き、地域コミュニティへとけ込めるよう橋渡しを行う。(事業中止)	0
20	まちづくり	特定非営利活動法人きりしま市民活動支援機構	市民活動の支援による地域活性化事業	市内の市民活動団体を支援するため、小冊子(市民活動のすすめ)やNPOマップの作成、相談会・セミナーを開催する。	500,000
合 計					4,563,000

平成22年度
霧島市市民活動支援事業成果報告書

平成23年12月

霧島市役所 企画部 共生協働推進課

〒899-4394 霧島市国分中央三丁目45番1号

TEL 0995-64-0988 (直通)

FAX 0995-47-2522

E-mail kyodo@city-kirishima.jp